国立公文書館	
分類	
	㊜ ㊒
排架番号	3 A
	15
	68-17

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

68-17

目次

◎情報部長會見談

(1) 塘沽協定ニ付テ（六月十七日）

(2) 英獨海軍協定ニ付テ（六月十七日）

(3) 北支及察哈爾竝一般支那問題ニ付テ（六月二十一日）

一、「チヤコ」紛爭大團圓（六月十二日）

調停六個國代表ノ努力奏効

二、支那

(1) 有吉大使國書捧呈

(2) 英國大使國書捧呈

(3) 四川ニ於ケル共産軍合流

(4) 廣東巡洋艦二隻脱出

(5) 上海稅關ニ分海關附加稅繼續徵收方告示
(6) 米國經濟視察團歸國ノ途ニ就ク
(7) 新聞論調
イ、「日本ノ認識」(六月十七、八日、天津大公報社長胡霖氏論說)
ロ、有吉大使國書捧呈ニ付テ
ハ、邦交敦睦令發布ニ付テ
ニ、列國ノ經濟視察團派遣說ニ付テ

三、米國

(1) 修正產業復興法成立經緯
△「クラーク」案ノ變形
△反「トラスト」法適用除外規定
△有効期間一九三六年四月一日迄
(2) 新產業復興局機構
(3) 大戰從軍外人歸化法改正法案

(4) 職債取立現狀
(5) 加州抗日諸法案流產
(6) 日本ノ對支政策ニ關スル「キング」決議案（上院）
(7) 北支ノ狀勢ト米紙（承前）

四、英國

(1) 北支問題ト「ホーア」外相（下院ノ答辯）
(2) 「マクドナルド」樞相渡米說
(3) 郭泰祺大使策動說（北支問題ニ付）
(4) 北支ノ狀勢ト英紙（承前）
(5) 英獨海軍會談再開

五、印度
北支ノ狀勢ト在印英紙
六、蘇聯邦
(1) 哈府、亞港、「オハ」間定期航空開始（六月十六日）
(2) 北支ノ狀勢ト蘇紙（承前）
七、佛蘭西
(1) 英獨海軍會談ト佛紙
(2) 北支ノ狀勢ト佛紙（承前）
八、獨逸
北支ノ狀勢ト獨紙
九、波蘭
北支ノ狀勢ト波紙

一〇 白耳義

北支ノ狀勢ト白紙

一一 瑞西

北支ノ狀勢ト瑞紙

一二 伯剌西爾

(1)「チャコ」紛爭ノ解決ニ成功

(2)北支ノ狀勢ト伯紙

一三 墨西哥

「カイエス」派總退却（突如政變）

一四 玖馬

新憲法發表（戒嚴令解除）

◎情報部長會見談

(1) 塘沽協定ニ付テ（六月十七日）

最近紐育「タイムス」其ノ他諸新聞ハ、北支問題ニ關スル記事中ニ塘沽停戰協定中ニハ往年ノ所謂二十一ケ條ノ如キ政治的且秘密的性質ヲ有スル條項ヲ含ンテ居ル旨ヲ傳ヘタカ、右ニ關シ六月十七日ノ外國記者團トノ定例會見ノ際質問カアツタニ對シ、情報部長ハ左ノ通答ヘタ。成記者ハ本社カラ問合方電照ニ接シタト附言シタ。

「塘沽停戰協定ハ公表シテナイカ、別ニ公表ヲ憚ル樣ナ不穩ナ條項モ又突飛ニシテ過激ナル條項モ含ンテ居ナイ。從テ別ニ秘密ニセネハナラヌ理由ハナイノテアルカ、支那側ノ希望モアリ、日支兩國官憲ハ之ヲ發表シナイコトヲ有利ト認メタノテ公表シナイ迄テ、所謂二十一ケ條ノ如キ政治的協定ヲ含ムテ居ルト云フノハ全ク捏造テアル。」

(2) 英獨海軍協定ニ付テ（六月十七日）

六月十七日海軍問題ニ關スル英獨公文交換ニ關シテ、英國ハ豫メ日本其ノ他ノ關係國ノ意向ヲ内々問合セタニ對シ、日本ハ英獨間ノ協定ニ對シテ別ニ異議ヲ申立ルヘキ筋ハナイ、併シ從來ノ日本ノ主張ハ右協定ニ依ツテ何等影響ヲ受ケルモノテナイトノ趣旨ヲ以テ回答シタ旨カ十五、六日頃本邦諸新聞紙上ニ散見シタ處、六月十七日ノ外國記者團トノ定期會見ノ際意見ヲ徵セラレタニ對シ、情報部長ハ右ニ就テハ只今言明スル自由ヲ有シナイト答ヘタカ敢テ否定モシナカツタ。

(3)北支及察哈爾並一般支那問題ニ付テ（六月二十一日）

六月二十一日外國新聞記者團トノ定期會見ニ於テ、情報部長ハ北支及察哈爾並一般支那問題ニ關スル報道ニ付テ大要左ノ通語ツタ。

「北支及察哈爾並一般支那問題ニ付テ、最近海外ニ種々ノ誤報カ傳ハツテ居ル樣テアルカ、我外務當局カ引合ニ出サレテ居ルモノニ付二三氣附イタ點カアル。即チ

(一)六月十二日ノ倫敦諸夕刊新聞ハ同日東京發「ルーター」トシテ、在本邦英國大使ハ日本政府ニ對シ支那ニ經濟專門家派遣ヲ提議シタカ日本政府ハ之ヲ拒絶シ、重光外務次官ハ日本カ右提議ニ參加スルコトハ、日本ノ支那ニ對スル既定ノ方針ニ反スル趣旨ヲ以テ應酬シタトノ報道ヲシタ由ナルカ、右ハ全然事實ニ反スル。第一日本ハ斯カル提議ニ接シタコト無ク、又支那經濟問題ニ關シ重光外務次官ノ英國大使ニ對スル會談ハ全ク「ノンコミタル」ナモノテアツタノテアル。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

(二)十七日倫敦發「レタ」通信ハ、在本邦英國大使カラ本國政府ニ致セル報告ニ依レハ、同大使ハ本國政府ノ訓令ニ基キ日本外務大臣ニ對シ、北支ニ於ケル日本ノ新目的ニ付日本政府ニ說明ヲ要求シタカ、右ニ關スル會談中日本外務大臣ハ北支ニ於テ軍事當局ハ外務省ト何等協議スルコトナクシテ行動シタルカ故ニ其ノ責ヲ負フコトヲ辭スト述ヘ、又日本軍部ノ察哈爾ニ於ケル行動ニ對シテハ不贊成ノ意ヲ仄メカシタトノ事テアル。云々ノ報道ヲ傳ヘ、其他乃前日ノ倫敦發「アバス」ハ、上海ニ對シ通牒ノ報道ヲ傳ヘ、十八日ノ漢字紙ニ掲載サレタ由ナルカ、右ハ全然事實無根ノ報道テアル。

右ノ如キ誤報カ如何ニシテ傳ハツタカ判斷ニ苦シムカ甚タ遺憾トスル所テアル。」

右ニ付其ノ場ニ居合セタ「ルーター」特派員ハ、右(一)ノ發電ハ同日ノ聯合及其ノ他同日東京諸新聞ノ夕刊ニ依ツテ傳ヘラレタモノニ基イタノテアルト辯明シタ。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

一、「チャコ」紛爭大團圓（六月十二日）

調停六箇國代表ノ努力奏効

「ボリビヤ」「パラグアイ」間「チャコ」紛爭ニ關シ「ブエノスアイレス」ニ開催中ノ調停六箇國代表（註）ト兩紛爭國外務大臣トノ會商ノ結果、六月九日左記內容ノ一調停案カ作成サレタ。

一、十二日間休戰スルコト
二、調停國及當事國軍事委員ハ緩衝線ヲ決定スルコト
三、調停國參加ノ上係爭國直接交涉ノコト
四、直接交涉ノ結果亞爾然丁國大統領ハ講和會議ヲ召集スルコト又ハ仲裁裁判ニ附議スルコト
五、停戰並武備撤退
六、軍備ヲ縮少スルコト
七、必要以上兵器ヲ購入セサルコト
八、兩係爭國ハ一九三二年八月三日ノ「メントザ」宣言（武力ニ依

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

ル領土擴張不承認）ヲ承認スルコト

「パラグアイ」政府ハ即日調停案ヲ受諾シ「ボリビヤ」ハ六月十一日漸ク之ヲ受諾シタ結果、十二日正午亜爾然丁國政廳ニ於テ兩當事國並調停六個國代表者間ニ調停議定書カ調印サレタ。尚停戰ニ關シテハ四十八時間後開始スヘキ旨カ規定サレテヰル。（別項「伯」ノ部(1)參照）

（註）「アルゼンチン」「ブラジル」「チリー」「ペルー」「ウルグアイ」米國。

二、支那

(1) 有吉大使國書捧呈

有吉大使ハ六月十四日國民政府ニ國書ヲ捧呈シタ。

(2) 英國大使國書捧呈

英國大使「カドガン」氏ハ六月十五日國民政府ニ國書ヲ捧呈シタ。

(3) 四川ニ於ケル共産軍合流

徐向前及朱毛ノ兩共産軍ハ遂ニ六月十五日懋功（四川西部）テ合流シタカ、合流後共産軍ノ總勢約十五萬ニ達シ、現ニ理番、松潘（四川西北部）方面ニ向ケ進行中テアルト云フ。

尚共産軍ノ企圖スル所ハ、國際路線打通ニアルモノノ様テアルカ、

右合流ハ成都方面ノ軍事ヲ緊張セシメ、警備嚴重ヲ極ムルニ至ッタ趣テアル。

(4) 廣東巡洋艦二隻脱出

六月十五日夜、陳濟棠氏隷下ノ巡洋艦、海圻、海琛ノ二隻カ脱出ヲ企テ、一隻ハ黄浦ノ下流約六哩ノ地點テ坐礁シ、他ノ一隻モ其ノ附近ニ投錨シタ。次テ十七日午前一時三十分カラ四十五分間ニ亘ッテ虎門砲臺ト砲火ヲ交ヘタ後、兩艦トモ海洋ヘ脱出シタ。

(5) 上海稅關二分海關附加稅繼續徵收方告示

上海稅關ハ六月十七日附テ現行二分海關附加稅ヲ更ニ明年六月三十日迄繼續徵收スヘキ旨ヲ告示シタ。

(6)米國經濟視察團歸國ノ途ニ就ク

米國經濟視察團ハ四月二十二日上海着以來南北支及長江上流（重慶迄）各地ヲ視察中デアツタカ、六月上旬杭州ニ赴イタノヲ最後トシテ（同地テ二日ニ亘リ宋子文氏ト會談シタ由）十日カラ十四日迄連日上海デ支那側金融業者及實業家ト協議會ヲ開キ、之ヲ以テ支那ニ於ケル使命ヲ終ヘ、六月十八日上海出帆ノ「クーリツヂ」號デ本邦經由歸米ノ途ニ就イタ。

同調査團ハ十六日聲明書ヲ發表シタカ調査ノ内容ニハ觸レス、報告書ハ船中デ作成ノ上歸米後發表スル筈タト云フ。

(7) 新聞論調

イ、「日本ノ認識」（六月十七日、天津、大公報社長胡霖氏論説）

先日來日本ヲ視察中デアツタ天津ノ大公報社長胡霖氏ハ、六月十七日同社ノ社説デ左ノ如ク論シタ。

「日本ノ認識」（六月十七日）

『我カ國民ハ日本ニ對シテ常ニ恐怖、疑惑、嫉惡ノ念ヲ抱キ、全ク自信力ヲ失ツテ居リ、甚タシク絶望的ニナツテ居ルカ、中國今日ノ急務ハ日本ヲ研究、理解、認識スルニアル。記者カ月餘ニ亘ツテ日本各地ヲ旅行シタ主要觀點ハ左ノ如クデアル。

日本ノ政治ノ中心ハ軍隊ニアリ、軍部ノ中心勢力ハ少壯軍人ニ存シテ居ル故、吾人カ日本ヲ認識セントスレハ軍人ヲ理解シナケレハナラヌ。過去ノ中國ノ種々ノ排日ノ實際ハ日本ノ認識不足カラ來テ居ル。殊ニ軍人ニ對シテハ最初ハ輕視シ次テ怨ミ之ト接觸シナイコトトナツタ。

日本人ノ氣質ハ勇ヲ好ミ義ヲ尙フ傳統的武士道精神ヲ有ツテ居リ、之ハ軍人ノ氣質ニ因ツタモノデ、日本ニ於ケル軍人崇拜ノ主因ハ此處ニアル。而シテ陸海軍大臣、參謀總長ノ地位ハ內閣ヲ超越シテ居ル。其ノ進退ハ內閣ノ運命ヲ左右スル優越ナ地位ニアリ、加フルニ數次戰爭ノ勝利ハ益國民ノ尊敬ヲ高メタ。又歷年政黨ノ腐敗、議會ノ無能ハ軍人ノ政治慾ヲ生セシメ、所謂昭和王政維新ノ一大運動ヲ起スニ至ツタ。然シ乍ラ、日本ノ軍人ハ決シテ中國人カ想像スル舊式軍閥デハナイ。所謂少壯派ト言ツテモ皆中年ノ人デアリ、世界ノ大勢ニ相當ノ認識ヲ有シテキル。彼等ハ近來國民思想ノ統一ヲ期シ萬世一系ノ君主國體ナルコトヲ極力宣揚シテ居ル。

其ノ結果、美濃部博士ノ天皇機關說ヲ排擊シ、寬博士ノ皇道國體論ヲ推重シテ居ル。此ノ外亞細亞復興ノ思潮ヲ唱道シテ居ル。日本デハ東洋文化鼓吹ノ爲、中學程度ノ學校ニ英語ヲ廢シテ漢文ニ變ヘヨウトスル等復古ノ潮流ハ見ルヘキモノカアリ、其ノ間彼等ハ相當ノ信念ヲ以テ進ンデ居ル。彼等ニハ歐米ヲ輕視スル見解カアルノデ、

又逆ニ歐洲ニ戰爭ノ起ルコトヲ臆測シテ東亞ノ覇權ヲ獨占シヨウトシ、國防上支那ニ安身立命ノ天ヲ求メ、第二次世界大戰ノ安全保障ヲ得ヨウトシテ居ル。一再ナラス支那ヲ脅迫スル所以ハ茲ニ在ル。支那ハ日本ヲ極端ニ輕侮シ、又過分ニ自驕シテ今日ノ苦境ニ立チ、日本亦木ニ椽テ魚ヲ求ムル錯誤ニ陷ツタ。今日日本軍人ヲ支配シテ居ルノハ北一輝氏ノ日本改造方案デ、國家改造運動ハ益伸張シ對支外交ハ唯其ノ一部ニ過キナイ。吾人ハ此ノ運動ノ前途ト支那トノ關係、其ノ中心勢力ノ人物ト思想ヲヨク研究シテ日支共存ノ道ヲ求メネハナラナイ。」

ロ、有吉大使國書捧呈ニ付テ

△朝報、（南京、六月十五日「日本大使國書捧呈ノ甘言」）

「有吉大使カ口上書テ述ヘタ所ハ、見方ニ依ツテハ外交官ノ普通ノ辭令トモ謂ヘルカ、日支關係カ今日ノ樣ナ場合ニハ恰モ妙ナル音樂ノ如ク尠ナカラス耳ニ快感ヲ覺ヘル。日支關係ノ將來ハ外交ノ常軌ヲ

ニ従ヒ、誠意ヲ以テ商議スレハ如何ナル事項モ解決シナイモノハ無カルヘク、之ニ反スレハ其ノ結果タルヤ殆ト思ヲ設クルニ堪ヘヌ。願クハ有吉大使ハ其ノ任期内ニ一切ノ日支關係ヲ常道ニ引戻シ、共存共榮ノ實ヲ擧ケラレンコトヲ。」

△中國日報（南京、六月十五日「日英兩大使ニ一言ヲ呈ス」）

「過去ニ於ケル各國ノ支那ニ對スル不斷ノ壓迫ハ、支那國民ニ反省ト敵愾心トヲ與ヘタ。此ノ國民ノ自覺タルヤ何國ノ飛行機、大砲ト雖之ヲ消失セシメ得ナイノミテナク、却テ逆ニ益之ヲ助長セシムルテアラウ。支那ハ常ニ武器ヲ棄テ、平等ヲ以テ我ヲ遇スル國家ノ良友タラント心懸テ居ル。將來如何ニシテ支那人カラノ友誼ヲ獲得スヘキヤハ、日英兩大使カ方ニ此ノ機ニ於テ愼重考慮スヘキ問題テアル。有吉大使國書捧呈ノ日、北方テハ日本飛行機ノ示威カアツタノヲ聞ク。吾人ハ當ニ「泣イテモ笑ツテモ駄目タ」トノ感無キヲ得ナイカ、猶有吉大使ノ斡旋ニ依リ此ノ變態外交ノ常道回歸ヲ希望シテ止マヌ。」

△大公報（六月十五日「日本新任大使ノ國書捧呈」）

「有吉大使ハ過去數年間中日兩國間ノ諒解ニ努力サレタ。今春以來中日兩國間ノ關係カ好轉シタノハ、有吉大使ノ努力ニ負フ所カ多イ。將來ハ兎モ角、此ノ老外交家ニ對シテハ最大ノ敬意ヲ表セネハナラヌ。過去ニ於テ中國ハ日本ニ對スル認識ヲ誤リ、日本ハ又支那ニ對スル尊重ヲ缺キ、斯クシテ黄色人種タル二大國民ハ握手シ得ス、支那ハ國難テ今日ノ狀態ニ陷リ、日本ハ隣邦新興國民ノ同情ヲ失ツタ。東亞ノ現狀ヨリ見テ兩國民ノ愚ヲ嘆セサルヲ得ナイ。然シ時局ノ轉換ヲ圖リ得ルノハ日本テアツテ支那テハナイ。故ニ有吉大使カ遠大ナ計劃ノ下ニ、平和親善政策ヲ樹立サレルコトヲ希望スル。歐米各國カ支那ヲ援助シテ日本ヲ拒否スルコトハ不可能テアリ、假リニ出來ルトシテモ無益テアル。之ハ良ク判ツテ居ル筈ダ。中日兩國ノ交渉ハ三千年ニ遡リ、兩國ハ世界史上最古ノ關係ヲ持ツテ居ル。而シテ現在日本ハ獨リ東亞ニ強大ヲ誇ツテ居ルカ、其ノ方策ハ十九世紀歐洲人ノ植民政策ト同一テアル。

中國ハ今日安危興廢ノ境ニ在ル。然シ日本カ世界ノ變局ニ當ツテ大陸ヲ席捲シ大ヲナサウトスレハ大イナル錯誤テアル。此ノ際日本人士カ次ノ二點ヲ悟ルニ至ルコトヲ確信スル。

一、中國人ノ國家意識カ強ケレハ強イ程日本ニトリ不變ノ友トナルコト。

一、中國カ統一強勢トナルコトハ日本ニトツテ眞ノ利益テアル。最近日本ノ政情ヲ綜觀スルニ、軍國思想カ勢揮セラレ、斯カル意見ハ必スシモ聽從サレヌタラウカ、今回大使ヲ交換シタノハ日本政府カ中國ヲ重視シタ公式ノ表示テアル故、速カニ正當ナ諒解ニ達シ以テ共同幸福ノ基ヲ定メルコトヲ祈ル。」

△武漢日報（漢口、六月十五日）

「日支大使交換以來、國交益敦睦ヲ加ヘ、更ニ日本外務省ハ有吉大使着任後ヲ期シテ一切ノ懸案ノ解決ヲ望ンテ居ルカ、平和ヲ愛好スル支那民族トシテモ素ヨリ切望スル所テアル。尤モ最近ノ事實ニ徵スルニ日本ノ外交步調ハ外務省ト軍部ト時ニ聯絡ナク、吾

人ヲシテ往々判斷ニ苦シマシメルモノカアツタカ、有吉大使ハ民國ニ使スルコト既ニ二年、過去ニ於ケル所謂誤解ナルモノカ多ク此ノ點ニ基因スルモノテアルコトヲ熟知シテ居ラレルノテ、今後必スヤ之カ改善ニ努力セラルルテアラウ。」

△大公報（漢口、六月十五日）

「河北問題緊張ノ際、有吉大使ハ未曾有ノ莊重ナ儀式裡ニ我政府ニ國書ヲ捧呈シタ。右ハ第三者カラ見レハ甚タ面白可笑シキコトテアラウカ、吾人カラ見レハ甚タ痛心スヘキコトテアル。捧呈式ニ於ケル雙方ノ辭令ハ熱烈ニ兩國ノ敦睦ヲ希望シタトノコトテアルカ、友邦ノ軍用機ハ同時ニ平津一帶ヲ低空飛行シタ。今次ノ河北事件ハ過去一切ノ問題ヲ解決スル最後ノ一幕テアツテ、此ノ一幕ノ閉シルト同時ニ兩國ノ關係カ敦睦トナラウト極メテ器用ナ晉ヲ傳スモノカアルカ、此ノ一幕カ何時閉シルヤハ相當疑問テアル。」

ハ、邦交敦睦令發布ニ付テ

△益世報（北平、六月十二日）

「邦交敦睦令ハ極メテ肯綮ニ當ル全國民指導ノ方針テ、對內的ニハ自力更生ヲ目標トシ、對外的ニハ國際平和ノ維持ニ努力スヘキコトヲ明示シタモノテアルカ、國際平和ノ確保ニハ列國ノ合作ヲ必要トシ、殊ニ隣邦日本ノ合作ハ最之ヲ必要トスルコト同國人士モ亦諒察スル所テアラウ。北支那ノ情勢ハ既ニ全ク緩和シタカ、今回ノ事件カ日支兩國最後ノ一線ヲ劃シ大團圓ニ入ランコトヲ望ムト共ニ、支那側ニ於ケル平和維持ノ苦衷ハ天下之ヲ諒トシタテアラウ。」

△北平晨報（六月十二日）

「支那眼前ノ目標ハ自己ノ改造ニアリ、他人ヲ排斥スルコトノ有害無益ナコトハ素ヨリテアルカ、友邦ニ於テモ支那カ目下建設ニ沒頭シ居リ無意義ノ行動ヲ爲ス餘力ナク、望ム所ハ人我ヲ侵サス我人ヲ侵ササル自衛ノ立場ヲ執ルニ過キナイコトヲ洞察シ、且支

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

那人ヲ後進ト見ルノハ可ナルモ、蠻人ト目セ）ハ大ナル錯誤ヲ來シ支那ヲ救フ所以ニアラサルコトヲ認識スルノ要カアル。又本國人ハ國家ノ今日ノ弱勢カ一朝一夕ノ故テナイコトヲ反省シ、天ヲ恨マス人ヲ咎メス、已ヲ責メテ努力スヘキコトヲ希望スル。」

二、列國ノ經濟視察團派遣說ニ付テ

△大公報（天津、六月十四日）

英、米、佛、伊四箇國政府カ支那ニ專門家ヲ派遣シテ經濟視察ヲナスニ決定シタ處、日本政府カ右提案ヲ拒絕シタトノ報道ニ關シ、大公報ハ六月十四日ノ社說テ次ノ如ク述ヘタ。

「今囘英國政府カ發議シ視察團ヲ中國ニ派遣スル目的ハ、自國商權維持ノ爲ニ他ナラヌ。米、佛、伊各國政府ノ意圖モ亦同樣テアル。英國政府カ幣制ノ研究ヲ重視シテ居ルノハ決シテ中國ノ財政金融ヲ支配スル爲テナク、又所謂國際共管ノ企圖ニ出タノテハナイ。然シ日本政府カ支那ニ對スル國際的援助ヲハ計劃ノ如何ヲ問

三、伊「エ」紛爭ト聯盟（承前）

(ハ)英佛側新和協提案發表

(1)發表前ノ情勢

イ、英佛會談「コムミユニケ」（十二月八日）

十二月八日「ラヴアール」、「ホーア」兩氏ノ會談繼續セラレ、右ノ結果大要左ノ趣旨ノ「コムミユニケ」カ發表サレタ。

「協和及英佛親善ノ精神裡ニ吾人ハ昨日ヨリ本日ニ亘リ伊「エ」紛爭平和的解決ノ基礎ヲ攻究セリ。右提案ハ先ツ英國政府ノ同意ヲ得タル後關係國ノ承認及聯盟ノ決議ニ俟タサルヘカラサルモノナルヲ以テ公表スルヲ得ス。吾人ハ公平ナル平和的解決ヲ速ニ達成センカ爲ニ努力シ、吾人ノ到達セル結果ニ付滿足ナリ。」

尚英國新聞ノ報スル所ニ依レハ、和協案ハ手續上ノ事項ニ關シ佛國側ト更ニ打合セヲ爲スノ要アリシ爲、九日ハ閣議決定ニ至ラサリシ

模様デ、十日正午ノ閣議ニ於テ、右案ノ提示ハ兩當事國ヘ同時ニ爲スヘキコト、並同案ノ受諾カ制裁緩和ノ條件トナラサルコトノ二點ノ修正ヲ施シタ上之ヲ承認スルニ決シ、右修正ハ佛國政府ノ容ルル所トナリ、十日夜伊「エ」兩國ヘ發送サレタトイフ。

ロ、「ボールドウイン」「イーデン」兩相答辯（十二月十日）

十二月十日下院ニ於テ反對黨首領「アトリー」氏ヨリ英佛和協案ノ性質ニ付說明ヲ求メタニ對シ「ボールドウイン」首相ハ、本件交渉ハ聯盟紛爭委員會承認ノ下ニ行ハレタモノデ、案ハ當事國ニ附議ラルヘキモノデアルカ、未タ伊「エ」孰レニモ提示サレテキナイトテ之ニ付說明ヲ拒ミ、巴里ニ於テ漏洩シタコトハ遺憾ナカラ新聞紙ニハ誤傳多ク今討議ヲ爲スハ弊多キ故之ヲ控ヘ度シト述ヘタル處、「アトリー」氏ハ滿足セス更ニ質疑ヲ重ヌヘシト述ヘ、他ノ討議ニ移リタルカ、夜ニ入リ更ニ「エチオピヤ」問題ノ討議ヲ開始シ、和協案ハ聯盟規約ノ當度ナルノミナラス今次總選擧ニ當リテ政府ノ爲

セル公約ニ反ストノ勞働黨「リース・スミス」氏ノ攻撃ニ對シ「イーデン」無任所相ハ、聯盟ハ英佛兩國ニ對シ和協基礎ノ發見ヲ委嘱シタルカ故ニ、兩國ハ嚴ニ聯盟ノ機構内ニ於テ和協基礎ノ發見ニ努メタ、解決ハ聯盟的解決ナルヘク、又兩當事國ノ承認スルモノナルヘキハ終始英國政府ノ方針テアリ、今迄行ヒ來ツタノハ制裁適用ノ一方、和協ノ途ヲ開カントスル聯盟ノ希望ニ基クモノテアル。兩當事國カ今次和協案ヲ受諾スルトスルモ、右ハ困難ナル事業ノ第一歩ヲ踏出シタニ過キス、和協案ノ内容ニ付テハ聯盟ニ提示シ聯盟ノ承認ヲ俟サルニ先立ツテ之ヲ公表シ得ナイ。同案ハ兩當事國ヲシテ商議ヲ開始セシムル爲ノ示唆ニ過キナイ。故ニ其ノ内容ニ付多少ノ異議アリトスルモ、其ノ目的タル商議開始ニ導クモノナラハ吾人ハ之ニ反對スヘキテナイ。和協案ハ、

(一)領土ノ交換

(二)聯盟指導ニ依ル「エ」國内政改革

(三)伊國ニ依ル「エ」國ノ經濟的開發

ノ三原則ヲ含ムモノテ、聯盟原則ニ違反スルヤニ付テハ聯盟ノ裁斷

アジア歴史資料センター Japan Center for Asian Historical Records

目次

◎情報部長會見談

(1) 委任統治地域ニ付テ（九月十九日）

(2) 出淵特派大使歡迎ニ對シ外務大臣ヨリ濠洲首相ニ表謝方ニ付テ（九月二十日）

〔聯盟ニ於ケル伊「エ」紛爭問題（承前）

(1) 總會一般討議（九月十一日－十六日）

イ、第一日（英、支、「エ」、諾、匈各代表）

ロ、第二日（蘭、瑞典、白、亞各代表）

ハ、第三日（「ラヴアール」佛代表及印、阿、智各代表）

ニ、第四日（「リトヴイノフ」代表）

ホ、第五日（愛蘭、巴奈馬、「ハイチ」波、墺、「リ」聯各代表）

(2) 報告委員會ノ凝議

(3)「ホーア」代表演說ト英佛紙

イ、英　紙

ロ、佛　紙

(4)「ラヴアール」代表演說ト佛英紙

イ、佛　紙

ロ、英　紙

二 滿洲國

滿洲國承認第三周年紀念祝賀式擧行

三 支　那

(1) 西南側中央委員六中全會ニ關シ中央執監委員會ニ電報ヲ發ス

(2) 獨逸大使國書捧呈ヲ了ス（九月十三日）

(3) 米國大使國書捧呈ヲ了ス（九月十七日）

(4) 英國大使館參事館ノ新疆旅行

(5) 在香港廣東國民商業儲蓄銀行支拂停止

(6) 「リースロス」氏ノ來華ニ關スル晨報社說

四 米國

(1) 伊「エ」紛爭ニ付不戰條約ノ尊重ヲ求ム（「ハル」長官「ステートメント」）

(2) 米獨間關稅戰切迫カ（新聞報）

(3) 日本製冷凍魚ニ關スル公聽會

五 獨逸

(1) 「ヒトラー」總統演說（「ニューレンベルグ」九月十五日）

(2) 右ニ對スル瑞西紙ノ評論

六 英國

英紙ノ伊太利批判（伊「エ」紛爭ニ關スル伊國側「コムミユニケ」ニ付テ）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

在支英國利權處分說（「アバス」通信）

七 佛蘭西

武器輸出取締ニ關スル大統領令（九月三日附）

八 加奈陀

日加通商問題ト加紙（承前）

九 亞爾然丁

亞日間貿易近況（本年一月－七月）

一〇 伯剌西爾

(1)移民誘致便法（聖州農園勞力不足問題、承前）

(2)右ニ關スル新聞論調

(3)米伯互恵通商條約下院通過

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

一一、「コロンビヤ」

(1) 米「コ」互惠通商協定調印

(2) 「リオ」修交議定書協賛

一二、蘭領印度

包裝紙制限令實施（九月十八日ヨリ）

一三、佛領印度支那

輸入及販賣禁制品（九月十日附佛國大統令ニ依ル）

一四、比島

(1) 初代正副大統領選擧終了

(2) 「ダバオ」日本在留民大會（土地問題ニ對スル聲明書）

一五、國際聯盟

(1) 委任統治問題審議（諸代表日本ニ言及）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

(2) 非常任理事改選

(3) 長岡春一氏當選（司法裁判所判事）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

◎情報部長會見談

(1) 委任統治地域ニ付テ（九月十九日）

九月十八日國際聯盟總會第六委員會ニ於テ委任統治問題ヲ審議セル席上、諾威代表「ランゲ」氏カ「日本政府ハ南洋委任統治地域ニ於ケル港灣修築ニ關シ、何等軍事的目的ヲ帶フルモノニアラストノ答辯ヲナセルモ、右答辯ハ不十分ニシテ吾人ハ到底之ヲ納得スルヲ得ス」ト述ヘ、又「聯盟ハ聯盟脫退國カ委任統治地域ト通商上聯盟國ト均等待遇ニ均霑スルノ權利ヲ確保シ得ルヤノ問題ヲ考究スル必要アリ」ト述ヘタル旨九月十八日壽府發聯合ニ依リ傳ヘラレタル處、十九日情報部長ハ外國新聞記者ヨリノ質問ニ對シ左ノ通我政府ノ反駁的見解ヲ述ヘタ。

「一、南洋委任統治地ニ於ケル日本ノ港灣修築カ非軍事的ニアラストノ非難ハ全然根據ナキモノテアル。該港灣修築ハ我政府當局カ屢次言明セル通純然タル經濟的且非軍事的目的ニ出ツルモノニ

シテ、右ハ第二十六回常設委任統治委員會ニ於テ帝國代表ニ由リテモ十分ニ説明セラレタル所テアル。

元來日本ノ南洋委任統治地域ニ於ケル港灣設備ハ甚タ不十分ニシテ、大船ハ入港不能ノ爲港外ニ假泊セサルヲ得サル狀態テアル。右港灣設備ハ現在同地方ニ於ケル經濟上ノ要求ヲ滿タシテ居ラヌ、況ヤ將來ノ發展ノ爲ニハ右ノ港灣修築ハ緊切ナル必要ニ迫ラレテ居ル。

三 日本カ聯盟ヲ脫退シタルノ故ヲ以テ、委任統治地域トノ通商上聯盟國ト均等待遇ヲ享受スル權利ナシトノ示唆ハ全ク不當テアル。

(イ) 帝國政府ハ日本カ主タル同盟及聯盟國ノ一員トシテ委任統治制度設定ニ參加シタルカ故ニ、委任統治地域ニ關シテハ重大ナル權原ヲ保有スルモノニシテ、右權原ハ聯盟脫退ニ依リ何等影響ヲ受クヘキ筋合テナイ。從來ニ於ケルト同樣、各委任統治地域ニ於ケル通商上均等待遇ヲ享クル權利ヲ有スルモノテアル。現ニ英、佛兩國政府ハ何レモ自國委任統治地域內ニ

アジア歴史資料センター Japan Center for Asian Historical Records

於テ日本ニ對シ引續キ均等待遇ヲ認メ居ル。此ノ點ニ關シ當初ヨリ非聯盟國タル米國カ均等待遇ヲ享ケ居ルコトハ注意ニ値ス。

(ロ)聯盟規約第二十二條ニ規定セラルル機會均等原則ハ、聯盟國ニ對シ通商上ノ均等待遇ヲ保障シ居ルモノナルモ、右ハ何等非聯盟國ニ對スル差別待遇ヲ意味スルモノニアラス。非聯盟國ト委任統治地域トノ通商關係ハ米國ノ場合ニ於ケルカ如ク、夫々當該受任國トノ間ノ自由協定ニ依リ調整セラルヘキモノテアルカ故ニ、毫モ聯盟ノ干渉ヲ必要トセサルモノテアル。

(ハ)抑聯盟本來ノ使命ハ、國際間ノ圓滿ナル通商關係ヲ勸奬助成スルニ在ルニ鑑ミ、聯盟カ特定國ニ對シ差別待遇ヲ示唆スルカ如キハ帝國政府ノ到底諒解スル能ハサル所テアル。」

(2)出淵特派大使歡迎ニ對シ外務大臣ヨリ濠洲首相ニ表謝方ニ付テ（九月二十日）

九月二十日ノ外國記者團トノ定期會見ニ於テ情報部長ハ

「日本政府ハ今回濠洲聯邦政府及國民カ出淵親善特派大使及其ノ一行ニ對シ懇切ナル歡迎ノ意ヲ表セラレタノニ滿足シ、外務大臣ハ本朝「ライオンズ」首相ニ對シ左ノ趣旨ノ謝電ヲ發シタ。」

トテ左記電報ヲ披露シタ。

今般親善特派使節出淵大使一行貴聯邦訪問ノ際貴國政府及國民ノ示サレタル御歡待ニ對シ深厚ナル謝意ヲ表ス。

一、聯盟ニ於ケル伊「エ」紛爭問題

(1)總會一般討議（九月十一日－十六日）

イ、第一日（英、支、「エ」、諾、匈各代表）

九月十一日總會ノ一般討議ハ劈頭英國外相カ「エチオピヤ」問題ノミヲ提ケテ立チ多大ノ感動ヲ與ヘタ爲從來ノ討議ト甚タ異ル光景ヲ呈シタカ、當日各代表ノ演說要旨左ノ如シ。

一、「ホーア」代表（英）（前號「英」ノ部(3)參照）

二、顧惠慶代表（支）

規約擁護ト平和維持ノ必要ヲ說キ、右ハ地域ト國ニ依リ取扱ニ區別ヲ設クヘカラスト爲シ、支那ハ過去ノ失望ニモ拘ラス聯盟トノ協力ヲ重視スト述ヘ（右ハ簡單ナル諷刺以外滿洲問題ニ言及スル所無シ）、共產主義ノ危險カ統一ノ邪魔ニナル點ヲ指摘シ、經濟上殊ニ交通方面ニ於ケル進步發展ヲ說キ、右ハ聯盟其ノ他ノ友邦トノ財政的、經濟的協力ノ端緒ニ過キスト述ヘ、支那カ政治上、

經濟上強力トナルハ支那一國ノ問題ニアラスト爲ス。

三、「エチオピヤ」代表

聯盟ノ提案スル解決方法ヲ受諾スル用意アル旨ヲ述ヘ、伊國ノ覺書ヲ反駁シ、現地ニ調査團ヲ派遣シ實狀ヲ視察セシムルモ可ナリト說キ、

四、諾威代表

「エチオピヤ」ノ聯盟加入ニ反對セル事實ヲ述ヘ、此ノ點伊國ノ主張ニ關係ノ點アルモ、右ハ規約蹂躙ノ口實ト爲スヘカラストナシ規約擁護ノ必要ヲ強調セル後、斷然　國（？）ニ對スル保護ノ必要ヲ主張シ、

五、匈牙利代表ハ

軍縮問題ニ付敗戰國ノミ軍備ヲ有セサルコトノ不條理ヲ強調シ、

少數民族問題ニ付實效的保護ノ必要ヲ述ヘ、

此ノ他濠洲代表（食糧問題）及墺國代表ノ發言アツテ後閉會シタ。

ロ、第二日（蘭、瑞典、白、亜各代表）

斯クテ翌十二日午前總會ハ一般討議ヲ續行シタカ各代表ノ演説要旨左ノ通。

一、和蘭代表（「グラーフ」氏）ハ、

一度戰爭勃發スルトキハ其ノ影響ハ世界全体ニ波及スヘク大ナル植民地ヲ有スル和蘭ノ地位ハ甚タ危險テアル。經濟資源及人口問題ニ關スル諸國ノ要望モ左ルコトナカラ、暴力ニ依ル解決法ニハ斷然反對セネハナラヌ。和蘭ハ聯盟ニ依ル平和機構ノ維持ヲ最重視スルモノテ、現存ノ紛爭ニ付規約ヲ擁護セルハ各聯盟國ノ責任テアル。ト説キ、

二、瑞典代表（「サンボラー」氏）ハ、

弱小國保護ノ要ヲ説キ、強力ニ對スル遠慮若クハ騒亂防止ニ腐心スル餘リ右保護ノ責任ヲ回避スルヲ得スト爲シ、伊國覺書中ノ「エ」國内事情殊ニ奴隷問題ハ重要ナルカ、之カ爲ニハ合法的ニ調査ヲ進メタラ宜カラウト言ヒ、

三、白國代表（「ファン・ゼーランド」氏）ハ、

「ホイア」外相ノ説ニ全然賛意ヲ表セル後、白國ノ政策ハ一方世界大戰ニ於テ示セル如ク飽迄約定ニ忠實ナラントスルト共ニ、他方現實主義ニシテ此ノ意味ニ於テ最後迄協調ニ向ツテ努力センコトヲ勸メルト述ヘ、次テ白國内ノ新經濟政策ノ成功ニ言及シ、

四、西諾瑞丁代表、

「チヤコ」問題ニ付報告シタ。

ハ、第三日（「ラヴアール」佛國代表及印、阿、智各代表）

翌九月十三日總會一般討議ノ模樣左ノ通。

一、佛國代表（「ラヴアール」氏）

「規約ノ尊重及集團制度ニ依ル安全組織ノ支持ハ佛國ノ傳統的政策デアリ、英國外相カ留保ナシニ右組織ヲ支持シタノハ聯盟史上特筆スヘキ事實デアル。佛國ハ何國ヨリモ之ヲ歡迎スル。平和維

持ノ爲英國トノ密接ナル協力ヲ重ンスル佛國ハ倫敦會議ニ於テ幾多希望ニ滿テル計畫ヲ樹テ、右ハ不幸其ノ後發生セル妨害ノ爲挫折スルニ至ツタケレト、同會議ノ報道ハ全世界ヨリ歡迎サレタ。羅馬協定締結後今「エチオピヤ」問題ヲ論議セサルヲ得ナイノハ甚タ苦痛テアルカ佛伊兩國代表ハ羅馬及「ストレーザ」ニ於テ兩國ノ爲ノミナラス歐洲平和ノ爲ニ協力センコトヲ約セルモノ、新政策カ如何ニ重大ナル價値ヲ有スルカ言フヲ俟タヌ。本紛爭解決ニ付余ハ飽迄協調ノ爲努力スヘク決シテ失望シテヰナイ。五人委員會ニ於テ他國ノ主權ヲ侵害スルコトナク、如何ニシテ伊國ノ正當ナル要望ヲ滿足セシムヘキカヲ研究中テ、英佛間ニ意見ノ相違ハ全ク存在セヌ。若シ本件ノ解決失敗セハ重大ナル事態ヲ生スヘク、其ノ際各自ノ執ルヘキ義務ハ規約ニ依リ規定シテアル。」

二、印度代表（「アガ・カン」）ハ聯盟ニ對スル不滿、聯盟ノ諸事業中失敗セルモノヲ列擧セル後、夫レニモ拘ラス聯盟ノ理想ト印度人ノ理想ト一致セルコトヲ擧ケ、

三、南阿代表（「テワター」氏）ハ、地理上並人種上南阿カ本紛爭ヲ特ニ重視スル所以ヲ述ヘ、黑人ニ對スル攻擊壓迫ノ不可ナルコトヲ說キ、

四、智利代表（「リバスビクーナ」氏）ハ「チヤコ」問題、食糧問題規約ノ缺陷等ニ付簡單ニ述ヘタ。

二、第四日（「リトヴイノフ」代表）

更ニ九月十四日總會一般討議ノ模樣左ノ通。

「リトヴイノフ」代表（蘇）

聯盟ノ無力若クハ失敗ハ其ノ組成員ノ責任ニ歸スヘク、此ノ意味ニ於テ自己批判ヲ爲ス要アリトシ、先ツ侵略者ノ意義カ未タ確定セサルコトノ不備ヲ指摘シ、例ヘハ若シ伊國カ單ニ行動ノ自由ヲ叫フ代リニ、一般ニ承認サレタ侵略ノ危險カ隣國ヨリ來ルコトニ付訴フルナラハ忽チ滿足ト同情ヲ得タテアラウト爲シ、次ニ軍縮

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

會議ヲ變シテ常設的平和會議ト爲スヘキコト並全般的軍備縮少ニ關スル蘇聯在來ノ主張ヲ繰返シ、其ノ外規約ヲ不戰條約ト調和セシムルコト、歐洲聯盟ニ關スル研究ノ再開ヲ說キ、平和ノ不可分性及共同安全保障ニ言及シ、聯盟ニ依ル共同安全保障ハ素ヨリ結構タ、然シ之ノミテハ不十分テ之ヲ補足スル爲佛、「チ」兩國トノ同盟條約ノ必要ナル所以ヲ說キ、更ニ共同安全保障ノ主義ニ反對スル二國條約主義ヲ反駁シ、英外相ノ說ニ贊意ヲ表セル後、最後ニ「エチオピヤ」問題ニ特ニ觸レサルコトニ付辯解シ、此ノ具體的問題ノミヲ論スル代リニ一般原則ニ付述フルハ現在ノ紛爭カ唯一ノ危險ニ非スシテ國際地平線上ニハ其ノ他ノ危險カ擡頭シツツアルカ故テアル、然シ若シ和協カ挫折シ最後ノ決定ヲ爲スヘキ時機到ラハ、蘇聯カ公平果斷ニ決意ヲ爲スヘキハ言フヲ俟タヌ。蘇聯カ國際約定ニ忠實ナルハ何人ニモ劣ラヌト述ヘタ。其ノ他土國外相カ軍縮ニ關シ平等待遇ノ存在セサルコトヲ遺憾トスル旨ノ自說ヲ簡單ニ述ヘタ以外ニ、希、「

ユーゴー」（小協商代表）、希（巴爾幹協商代表）、「リスアニヤ」、芬蘭、加奈陀、「エクアドル」、新西蘭、「ホンヂユラス」阿富汗代表ヨリ交々規約擁護、小國ノ立場、「ホーア」英國代表ノ演說ニ對スル贊意等ニ付述フル所カアツタ。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

ホ、第五日（愛蘭、巴奈馬、「ハイチ」、波、墺、「リ」、蘇各代表）

蘇波代表應酬

九月十六日總會本會議ノ經過左ノ通。一般討議ハ之ニテ終結シタ。

ヘ、一般討議

愛蘭自由國代表「デヴァレア」氏ノ熱烈ナル規約擁護論ニ續キ、巴奈馬、「ハイチ」代表ヨリ同趣旨ノ演説カアツタ後突如波蘭代表「ベツク」氏ハ蘇聯代表ノ演説ノ爲左ノ宣言ヲ爲スコトヲ餘儀無クセラルト前提シ、

「蘇聯代表ハ其ノ演説中波蘭ノ締結セル條約ノ或モノヲ明カニ指シツツ明白ナル先入主ト得手勝手ノ論法ヲ以テ之ヲ批評セル處、波蘭政府ハ斯カル措置ニ對シ明瞭ニ留保スル。波蘭ノ政策ニ關スル斯ノ如キ批評ニ對シ波蘭政府ハ取合フ意嚮無キモ、斯カル措置ハ聯盟ニ於テ例少ク、公正ナル國際協力ヲ害スルモノナルコトヲ現聯盟國ノ一員トシテ考ヘサルヲ得ス」

ト聲明シタ。

三 其ノ他ノ宣言

一般討議ハ以上ヲ以テ終了シタカ、其ノ外ニ墺、「リスアニヤ」蘇ノ三國代表ノ簡單ナル宣言カアツタ。

(イ)「リトヴイノフ」代表（蘇）ハ前記「ベツク」代表（波）ノ宣言ニ對シ之ヲ聽イテ驚イタノハ自分ノミテハアルマイト前置シ、自分ノ演說ハ何等波蘭若クハ其ノ政策ヲ指シタコト無ク、單ニ二國間ノ條約ニ依リ戰爭ヲ局地化セントスル論者ト集團的安全保障論者トノ二ノ異ル見解ニ付述ヘタモノテ、蘇聯ハ他國殊ニ蘇聯ノ隣接國ノ意見ニ付冷淡ナルヲ得ス、自國ノ政策カ理解セラレンコトヲ希望スル旨簡單ニ應酬シ（「リ」代表カ登壇スルヤ波國代表全部退席シ注目ヲ惹イタ）

(ロ)「リスアニヤ」代表ハ同國カ他迄規約ニ忠實ナルコトヲ宣言シ、暗ニ「メーメル」問題ニ關スル「ヒトラー」警告ニ對シ一矢ヲ酬ヒ、

(ハ)墺國代表ハ非常任理事席カ或）「グループ」ノ代表ニ依リ占メラルル結果全然選擧セラルル機會無キ國アルコトヲ指摘シ、右不公正ナル事態改善方ニ關スル希望ヲ述ヘタ。

(2) 報告委員會ノ凝議

伊「エ」紛爭ニ關スル理事會報告委員會ハ九月十七日午前十時半ヨリ二時間半會合、佛國首相ハ記者團ノ質問ニ對シ單ニ目下交渉ノ基礎タルヘキ事項ヲ研究中テアルト答ヘタニ止マルカ、右ハ小委員會ノ專門的研究ノ結果ニ付本委員會ノ議論分レ、具體案ノ理事會提出ニ先立チ更ニ兩當事國トノ内協議等ヲ試ミントノ希望ニ基クモノト觀測スル向カ多ク、同委員會ハ同日午后モ四時ヨリ六時迄會合シタカ矢張リ何等決定ニ至ラス、唯

「今日モ平和的解決ノ探究ヲ續ケタルカ、交渉ノ基礎トナルヘキ諸案ヲ終局的ニ取纒ムル爲明朝更ニ會合スヘシ。」

ト簡單ニ公表シタ。

(3)「ホーア」代表演說ト英佛紙

イ、英紙

九月十二日ノ英國各紙ハ擧ツテ「ホーア」英國代表ノ聯盟ニ於ケル處女演說ニ付テ社說ヲ掲ケ、各自ノ立場カラ之ヲ賞讃シタカ、各紙論調ノ中心ハ寧ロ「エチオピヤ」ヲ離レ英國政府今後ノ政策ニ對スル關心ノ方カ強カツタ。

「タイムス」、「デーリー・テレグラフ」兩紙ハ、「ホーア」外相ノ演說カ過激ナ措置ヲ愼シミツツ而モ尙英國ノ聯盟ニ忠實ナル所以ヲ確言セルヲ多トシ、又武力崇拜ノ傾向ニ反對スル消極的努力ニノミニ資セス、率直ニ原料品問題ノ存在ヲ認メ其ノ冷靜ナ考究開始ニ言及シタノハ機宜ヲ得タモノテ之ニ付テモ聯盟ヲ利用スヘク、何レニセヨ世界ハ重大ナ分岐點ニアリトナシ、

「イーヴニング・ポースト」ハ、「ホーア」外相ハ聯盟カ英國外交政策ノ基礎テアルコトヲ更ニ明カニシ聯盟論者ヲ喜ハセタカ、英國

ノ聯盟國及一獨立國トシテノ區別ハ演說中ニモ明カテ、從ツテ「エチオピヤ」ノ爲獨立ト保護ノ爲單獨ニ行動スヘキテハナク、假リニシタクトモ英國軍備ノ現狀テハ不可能ナコトテ、原料問題ニ付テモ差當リ研究ニ止メタノハ寔ニ結構ナコトテ、假ニ此ノ種ノ犧牲ヲ拂フニシテモ脅カサレテ爲シタカノ觀ヲ絕對ニ避クヘキタ、ト例ニ依リ海軍充實ヲ說キ、

「マンチエスター・ガーデイアン」ハ特ニ原料問題考究提議ハ結構テ、英國其ノ他ノ植民國ハ聯盟ヲ此ノ點ニ於ケル受託者トシテ利用出來ヌモノカト提案シ、

「デリー・クロニクル」ハ「エチオピヤ」問題ニ至ツテハ口ヲ極メテ副外相ノ演說ヲ賞讚、之ヲ英國ノ對聯盟政策カ曖昧タトカ勇氣ヲ缺クトカノ從來ノ非難カ一掃サレ、同時ニ佛國カ英國ト伊國トノ何レカヲ擇フノ時ニ逢シタトシ、

「デーリー・ヘラルド」ハ、本演說ハ「ムツソリーニ」首相ニ對スル辯舌タル以上ニ、英國カ國際關係ノ全般ニ對シテ抱懷スル外交方

針ヲ闡明シタモノテ、特ニ挑發セラレサル侵略ニ對スル集團的抵抗ニ言及シタノハ英國輿論ノ大半ヲ反映シタモノタ。英國ハ他國ノ利己的動機ノ爲聯盟本來ノ使命遂行不可能ナコトカ明カニナレハ考ヘ直サネハナラヌカ未タ其ノ時機テハナイ。夫レ迄聯盟擁護ノ爲全力ヲ盡スヘキテアラウト論シタ。

唯「デーリー・メール」ハ、本演説ハ英國カ「エチオピヤ」ノ爲歐洲戰爭ノ渦中ニ投セラレハセヌカトノ懸念ヲ寧ロ増大シタモノテ、英國許リ犧牲ノ役ヲ仰セ付ケラレルノハ眞平タト非難的口吻ヲ洩シタ。

ロ、佛紙

「ホーア」英國代表ノ演説ハ巴里新聞カ兩三日以來大イニ期待シテ居タノテ、九月十二日朝之ニ付テ論説ヲ掲ケルモノ多ク、何レモ同演説ノ重要性ヲ認メタカ、其ノ意義ノ取リ方ハ一樣テハナク、右

演說ノ結果妥協ノ可能性カ減少シタト見ルモノモ尠クナイ。卽チ一主トシテ左派新聞例ヘハ
「ウーヴル」ハ聯盟創立以來ノ大演說タトシ、英國ハ遂ニ共同安全保障ニ協力スヘキコトヲ明カニシタカ、「ラヴアール」首相モ之ニ共鳴スル演說ヲナシ伊太利ノ反省ヲ促スヘシト說キ、
「エコ・ド・パリ」ハ、「ホーア」外相ノ聯盟主義宣言ハ大イニ歡迎スル、然シ英國カ歐洲大陸問題ニ付テ同樣ノ態度ヲトルヘキヤニ付テハ明カテナイト論シ、
「プチ・パリヂヤン」ハ、佛國ハ制裁實行ニハ參加セヌト述ヘ、
「ジュルナール」ハ、同演說ヲ非難シ、歐洲問題ニ對スル英國ノ態度不明ナルノミナラス、伊太利牽制ノ國際團結ヲ叫ンテ和協ノ望ミヲ少ナクシタトシ、
「マタン」及「ジユール」ハ英獨海軍協定ノ事實ニ顧ミ英國聯盟主義ノ純粹性ヲ疑ヒ、英國ノ態度ハ伊太利ノ正常ナル權利ヲ害シ佛國ヲ不安ナラシムルモノト論シタ。

(ト)「ラヴアール」代表演說ト佛英紙

イ、佛　紙

「ラヴアトル」首相ノ演說ニ付テハ九月十四日ノ巴里各新聞ハ一般ニ同首相カ英國「ホーア」外相ノ演說中、聯盟乃至集團的安全保障主義ノ强調サレタノニ注意ヲ拂ツテヰル點ニ注目シ、

「エコー・ド・パリ」及「ウーブル」ハ、

『佛國大使「コルバン」氏カ數日前英國外務省ニ對シ將來歐洲大陸問題ニ付テモ同樣ノ態度ニ出ツヘキヤヲ質ネタソウタカ、英國トシテハ「ホーア」外相ノ演說以上ニハ回答出來マイ。』

ト述へ、

「ジュルナル」ハ、『英國ノ立場ヲ知ル佛國トシテソンナ事ヲスル答ハナイ。』ト唱へ、

「タン」ハ其ノ社說ニ於テ、

『「ラヴ・アール」首相ノ演說ノ趣旨ハ伊「エ」紛爭ヲ伊對聯盟ノ

紛爭ニ惡化セシメマイトスルモノテ、尙平和的解決ノ爲ニ努力シ得ル餘地アルコトヲ示シタモノテアル。』ト論シ、

「フイガロ」及「アントランシジヤン」ハ、

『此ノ演説ハ佛國ノ對伊友誼ノ限度ヲ示シタモノテアリ、伊國ニ對シテハ戰ハスシテ實利ヲ占メヨ』ト説ケルニ對シ、

「マタン」及「ジユール」ハ依然親伊論ヲ稱ヘテヰタ。

ロ、英紙

英國各新聞ハ同演説ヲ以テ何レモ「エチオピヤ」問題ニ付英佛協調ノ政擬ヲ闡明スルモノトシテ歡迎シタ。

△「タイムス」

『「ラヴアール」代表ノ演説ニ依リ佛國ノ政策ニハ何等疑問ノ餘地ヲ存セサルニ至ツタ。聯盟各國カ英佛ノ政策ヲ熱心ニ支持セル事實ハ、將來國際紛爭ニ於テ愼重且公平ナル判斷カ權威ヲ有スルモノナル事ヲ意味スルモノテ、今後國際條約ニ背反スル國ハ何レ